



18 高村光雲 鹿置物

一点

大正九年（一九二〇） 木彫
二八・〇×四九・三×五一・五

紅葉の散る秋の野を悠然と歩む雄鹿とそれに寄り添う雌鹿を木彫で表した、高村光雲（一八五二～一九三四）による作品である。大正八年の皇太子（昭和天皇）御成年式に際して、皇太子より大正天皇への記念の品として制作されたもので、宮内省より東京美術学校へ制作の依頼があり、これを受けて同校彫刻科の教授であった高村が一年近くをかけて完成させた。観察に基づいた写実表現ときめ細かな彫り、またエンジュ材の美しい木目がこの作品の魅力となっている。大正から昭和初期にかけて高村は皇室の御慶事に際して宮内省から美術学校へ依頼のあった品をこの他にも手掛けており、いずれも高村が得意とした動物を主題としている。また本作は大正十一年にパリのグラン・パレで行われた「サロン出品日本美術展覧会」に出品された。同展は古美術のほか、当時の作家九十名の作品が集められており、日本の現代美術を紹介する内容であった。高村はその著書『光雲懐古談』（昭和四年）の口絵に本作の写真を同展出品作として掲載しており、日本彫刻界に君臨していた高村の、大正期の作歴のなかで重要な作品といえる。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花ひらく個性、作家の時代―大正・昭和初期の美術工芸

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 50

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年三月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections